

IV－34 地域連携におけるパーシャル連携の理念とその必要性について

東北地方整備局 秋田工事事務所 正会員○金釜 高
東北地方整備局 秋田工事事務所 正会員 近藤 清久
秋田大学 正会員 清水 浩志郎
株式会社 ウヌマ地域総研 正会員 藤田 勝

1. はじめに

我が国では、人口減少、少子高齢化、低成長経済などが予想されており、成熟社会が到来する。このような成熟社会においては、従来のような成長を前提とする集積の増大を目標とした政策は適用せず、地域連携や交流を重視した政策転換が必要となる。

近年、高規格道路網を始めとした、高速交通体系が整備されつつあるなかで、従来では地域連携の対象となり得ない程の距離にある2点間においても、交流・地域連携が生じつつある。

現在、宮古市、盛岡市、秋田市をつなぐ、国道46号、国道106号の地域高規格道路化が推進されている。この実現により本地域内では、これまで考えられない地域間の新たな連携の可能性が高まるものと期待される。

以上のような背景の中で本考察は、宮古、盛岡、秋田地域の地域連携推進に向けて、本地域における地域連携の取り組み及び関連する国・県等の計画等から、地域連携軸形成に向けた課題を抽出し、新たな理念と必要性について考察を行うものである。

2. 地域連携の取り組み分析

宮古・盛岡・秋田地域における地域連携への取り組み及び国・県における構想を表－1にまとめる。

本地域における地域連携に関わる活動の実態をみると、広域生活圏内の市町村間における機能分担への動き、さらに地域連携軸の形成に向けて、一つのテーマの中で、軸状に展開する社会基盤の上で、端から端までの広域的な地域が一体となった活動を目指す動きが見られる。

すべての地域に点在する様々な素材をそれぞれのテーマに基づき、如何に連なり合い、圏域として一体化が図られるかがといったシリーズ型の連携に対する視点に重きが置かれてきたといえる。

一体となった広域的な活動の動きは、地域連携の必要性に対する意識の醸成やこれまで相対することのなかった地域同士の交流、認識、地域づくりに対する意識変化に大きな効果をもたらしたといえる。

一方で、このような大きな組織活動は、継続への大きな労力と費用を有するものであるが、住民の日常生活への効果が見えにくい。また、地域活性

表－1 宮古・盛岡・秋田地域における連携への取り組みと国・県における新たな構想

地域連携活動団体	団体名	構成団体等
	秋田・岩手地域連携軸推進協議会	国道46号、106号沿線市町村（岩手県：16市町村、秋田県：11市町村）
	北東北地域連携軸構想推進協議会	国道107号沿線の11市（大船渡、水沢、花巻、北上、江刺、遠野、釜石、横手、本花、大曲、湯沢）
	北東北地域連携軸構想推進国道46号地域協議会	国道46号沿線町村（角館町、協和町、西木村、中仙町、田沢湖町、滝沢村、雫石町）
	東北横断自動車道釜石秋田線地域連携軸研究会	東北横断自動車道釜石秋田線沿線市町村、岩手県、秋田県、日本道路公団 他
	奥羽山系・大曲・太田～花巻・沢内地域連携軸推進協議会	太田町、大曲市、中仙町、仙北町、花巻市、沢内村
	スノーバスターズ連絡協議会	沢内村、湯田町、安代町、雫石町、松尾村等岩手県内15市町村の各福祉協議会、スノーティガグループ
	バザール街道107実行委員会	国道107号沿線の14市町村
	北上横手地域開発協議会	湯田町、北上市、東和町、沢内村、横手市、山内村
	北上川流域市町村連絡協議会	北上川流域22市町村
	岩手三陸サンライズネットワーク	宮古、久慈、釜石、大船渡商工会議所青年部
国・県等の新たな構想	北東北交流連携倶楽部	国道46号・106号沿道市町村内の企業経営者等
	北緯40° Bライン連携軸推進協議会	岩手県・秋田県商工会議所青年部
	計画名	策定主体・時期等
	第5次東北開発促進計画	国土庁地域振興局、平成11年3月策定、目標年次平成22～27年
	岩手県総合計画	岩手県、平成11年8月策定、目標年次平成11～22年
	秋田県総合発展計画	秋田県、平成12年2月策定、目標年次平成32年
	新青森長期総合プラン	青森県、平成9年2月策定、目標年次平成9～18年
	北東北広域連携構想	北東北広域連携推進協議会：青森県、岩手県、秋田県、平成11年10月策定、目標年次平成20年
	地域連軸プラン	岩手・秋田県内市町村が23圏域を設定し策定（県域を超える圏域設定が2圏域ある）

